教材研究ノート№2-A-2

≪学習問題≫

ビーズのかざりがあります。

○のビーズ37こと　◆のビーズ12こで　で

きています。ぜんぶで　なんこの　ビーズで

できているでしょうか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・何十をたすたし算や，何十をひくひき算の仕方を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・37を30と7のように，十のまとまりと一のまとまりで考える学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・十の位，一の位のそれぞれを別々に合わせることは初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・一けたのたし算で，たす数とたされる数を交換しても和が変わらないことを経験している。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

③個人追究:12を分けて追究し，計算の仕方を考える。

MCj02509930000[1]

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②見通し:12こを数えてたすのはたいへんだ。

→何十をたすことなら学習したからできる。

②学習課題:12を10と2に分けて，何十のたし算のやり方を使って計算の仕方を考えよう。

仕方を，計算や図を使って

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの計算の仕方にも共通していることは何だろう？」

→「2けたの数を，十の位と一の位に分けて計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「30と10，7と2を別々にたしてから，合わせるやり方はよいのかな？」

→「十の束どうしと一の棒どうしを合わせることと同じだから，別々にたしてもいいはずだ。」

「37を30+7，12を10＋2と考えれば，37＋12は30＋7＋10＋2と表せから，30＋10＋7＋2と順序をかえてもよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・2けたの数どうしのたし算は，十の位同士，一の位同士でまとめてから合わせることで計算できた。

・2けたの場合も，たし算は順序をかえて計算してもよい。

⑥定着･活用問題

・次の計算をしよう。

1. 31＋42　　(2)　24＋40　　(3)　4＋85

・50＋20＋3＋4は、どんな2つの数を計算しているのだろう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・およそいくつになるか予想させ，既習内容をもとに，計算棒を操作して考えながら，10の束と1のばらを別々に計算すればよいことに気づかせたい。

・子どもの追究に表れた「基準量のいくつ分でみる見方」を基に，同じ位どうしを計算すればよいということから，位どうしを縦に並べると見やすく計算しやすいことに着目させたい。

【板書計画】